

説明会資料に関する事前意見及び市の考え方について

番号	年代	性別	ご意見など	市の考え方	担当課
1	30才代	女	<p>&lt;公共施設の適正化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校校庭の開放については賛成です。ただ先日、校庭で高齢者と衝突し、小学生に賠償判決が下されたというニュースもありましたので、安全対策や責任範囲について十分に検討を行った上で進めていただければと思います。</li> <li>・88か所ある児童遊園を「本当に使っている人がいるのか？」という昨年の市長のお言葉と「総量縮減」を前提とした動きに、正確に「本当の需要」を把握した上で縮減が成されるのか、小さい子を持つ親として不安に感じております。本当は利用したいが利用していない方にも、遊具の老朽化による不安、近隣住民への配慮、酷暑による遊具の高温化、学年による遊び方の違いなど、色々な理由があると思います。また、西春駅周辺にはマンションも増えており、子連れ世帯が増加するのではないのでしょうか。近隣住民のクレームがあったからすぐに減らすのではなく、静かに遊べる遊具の導入や日差しを防ぐ屋根などの設置など検討できるのではないのでしょうか。最大多数の最大幸福を追求した解決策を目指してほしいと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、栗島小学校にて、専用スタッフとして1名配置し見守りを行いながら、校庭開放の実証事業を実施しました。実証事業の結果に基づき、安全対策や責任の所在について整理したうえで、今後、他の学校での実施に向けて検討を進めていきます。</li> <li>・児童遊園はもともと、小さなお子様の憩いや遊びの場として整備を進めてきました。しかし、現状の児童遊園の利用方法としては、地域のイベント会場、通学団の集合場所、資源ごみ回収場所など多岐にわたっています。「児童遊園の総量縮減」の取り組みにおいては、まずは各児童遊園の利用方法・利用状況などを整理したうえで、それぞれの利用方法にあった適正な施設としての管理を進めていくことと、都市公園や運動広場といった同種施設とのバランスを見ながら、統廃合の検討を進めていきます。総量縮減といっても、ただ減らすということではなく、現在の利用状況なども踏まえて、今後も存続する施設については、適正に維持管理していきます。</li> </ul>	スポーツ課 施設管理課
			<p>&lt;市民サービスの見直し&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市公式HPのリニューアルは、まさに「待っていました」という気持ちです。運用開始後も作って終わりではなく、問い合わせフォームやAIチャットなどを活用して、使い勝手などの意見を募り、DX化の推進を継続してほしいです。</li> <li>・私は一部既に導入されている保育システムCODMON利用者の一人ですが、手書きの苦勞もなく、大変便利で有難いシステムです。今回の導入にあたり、れんらくちょうのフォームが統一されたとはいえ、保護者も保育士の方も、最初は「何をどこまで書けばよいのか？」と悩み、余計な時間が割かれ、逆に効率が低下する可能性が考えられます。個人の記入の自由を奪わない範囲で、多くの人が悩む点について、保育施設ではなく「市」が主体となったマニュアル作り(よくある質問集)をするなどして、保育士の負担軽減を図ってほしいと思います。</li> <li>・鹿田北保育園の建て替えの際には、将来的な人口減少を多面的に捉え、建て直す今の段階から、将来的には児童館として使えないかなど、多様な使い方ができるように先手を打ったコンセプト策定を期待いたします。(公共施設の適正化と関連し、減らした児童遊園の代わりにできるようになど)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市公式ホームページは令和7年3月にリニューアルを予定しており、「見やすい」「探しやすい」をコンセプトに設計を進めているところです。運用開始後も市民の皆様の声や閲覧状況を分析し、利用しやすいホームページを目指していく予定です。</li> <li>・保護者と保育士双方の負担軽減と利便性が向上する運用が出来るよう検討していきます。</li> <li>・鹿田北保育園の建て替えについては、進む少子化に対する施設の将来的なあり方を関係部署とも十分協議・検討を進めていきます。</li> </ul>	秘書広報課 保育課
2	30才代	男	<p>●P4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正職員数が減っているのに人件費が減っていないのはその分会計年度任用職員数が増えているからということでしょうか。人件費を抑えるのは大切なことだと思いますが、正職員の負担が心配です。一定の人件費の範囲内で、正職員の割合を増やし、会計年度任用職員の割合を減らす方法もあると思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正職員が不足する業務は、会計年度任用職員で対応しておりますが、主な要因としては社会情勢による人件費の高騰となります。</li> <li>・正規職員の採用については、社会全体が人手不足であり、本市も毎年職員数の維持に苦心しているのが現状です。そのため、新卒に限らず、社会人経験者の枠を設けるなどして、幅広い人材を確保できるよう努めています。また、今後も少子化による人手不足の影響は続く見込みであり、DX化を推進するなどして対応する必要があると考えています。</li> </ul>	人事課
			<p>●P5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者福祉に係る費用は主に介護特会への繰出金で、この扶助費とは別に経理されているという認識でよろしいでしょうか。</li> <li>・少子化により子どもの数が減れば、児童福祉費における扶助費も減るのではないかと単純に思えてしまいますが…。決算額しか記載されていないので、具体的に何の経費がどういった理由で増えているのか教えてください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険特別会計への繰出金は、扶助費とは別で計上しています。※資料4ページ「歳出決算額の推移」の「繰出金」に含んでいます。</li> <li>・扶助費は近年、障害サービス費・生活保護費等の影響により、市の負担額が全体的に増加しています。また、少子化の傾向はあるものの、子ども医療費の無償化等により、児童関連経費も全体的に増加しています。</li> </ul>	財政課
			<p>●P6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この地方債残高は普通会計分でしょうか。公営企業債であっても雨水事業の元利償還が全額繰出しの対象になるなど、普通会計に影響を与えるものが少なからずありますので、そういった借入れのバランスも見極める必要があると思います。</li> <li>・基金残高の状況が知りたいです。地方債残高が減っても、それ以上に財調の残高が減ってしまえば意味がありません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料中の地方債残高は普通会計分となります。その他の地方債については、主に下水道事業債を活用しておりますが、経営戦略等に基づき、持続可能な事業運営を行うよう努めております。</li> <li>・基金については、「令和6年度財政中期試算」において年度間残高の推移を掲載しておりますので、市HP(財政課)をご参照ください。</li> </ul>	財政課
			<p>●P18</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の防災無線はアナログ式とありますが、デジタル式に移行しなくてはならないリミットがあるのでしょうか。</li> <li>・防災アプリのインシャルコストとランニングコスト、またそれが北名古屋市の財政状況に今後どう影響してくるのか示してほしいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在のアナログ式の防災行政無線は、合併前に整備され老朽化が進むとともに、故障時の代替部品が手に入らないなど、今後も継続して使用するには課題が多いため、具体的なリミットということではありませんが、早急にデジタル化による更新を進めることといたしました。</li> <li>・防災アプリの導入により、現在使用している災害時一斉メール配信システムの費用が削減できるため、費用としては現状と大きく変わりませんが、今後も財政状況を見ながらコスト意識をもって運用していきます。</li> </ul>	危機管理課
			<p>●公共施設について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設の適正化計画に関し、万人が納得するものを作るのは不可能だと考えます。利用者が1人でもいる限り、どうしても利害関係者や当事者としての要望が出てくるのは仕方ありません。ただ、仮にその施設を廃止するという結論に至ったとしても、それは決してそういった人たちの声を無視しているのではなく、その先にある市民の願いを実現する可能性を見出すため、そして北名古屋市が自治体として存続するために、必要な財源を生み出すための行財政改革であるということと、多くの市民に感じてもらえるような計画になるよう、努めてほしいとは思っています。そのためには、できる限り具体的に数値的根拠をもった内容で、かつそれが達成されることによって生み出される財源で何が出来るか、ということまで示せるとなお良いと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設の適正配置を進めることにより、社会情勢や社会構造が大きく変化しても、市民サービスを持続的に提供する事ができるようになると考えています。公共施設適正配置計画の策定にあたっては、ご意見いただきました通り、数値的な根拠や具体的な施策例なども踏まえて進めてまいります。</li> </ul>	政策調整課
<p>●全体を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の決算カードや広報紙での決算状況の記事はまだ出ていませんが、令和4年度のそれらを拝見させていただき、多少なりとも財政状況が上向きになっていることは嬉しく思います。だからこそ、こういった財政説明会は今後も定期的継続してほしいと強く感じます。財源のバイが決まっている以上、極論を言えば「体育施設を充実させるために、その分福祉医療費を削っていいか」というような議論になってきます。何を残すために何を削るか選択するのは市民自身であり、行政や議会だけの責任ではありません。財政状況をもっと知れば一人一人の見方や意識が変わるし、それこそが財政再建の大きな力になると信じています。長い道のりかもしれませんが、頑張りましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政状況については、現時点でみると上向きに見える部分があるかもしれませんが、まだまだ厳しい状況にあり、行財政改革は道半ばと考えています。「ともに進める。新しい北名古屋市へ」のモットーのもと、これからも市民の皆様や議会と対話を続けてまいります。</li> </ul>	政策調整課			
3	60才代	男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孫をつれて公園でボール遊びをしようとしたら、「ボール遊び禁止 野球・サッカーなど」の看板がありました。主旨は大人の野球やサッカーを禁止するものだと思います。また、孫に幼児用の補助輪自転車練習させようと公園にきたら、「自転車・オートバイをのりいれない」と表示があります。これも大人の自転車が対象だと思います。5歳児とのボール遊びや幼児自転車練習のための活動が、近所迷惑になるとは到底考えられません。いずれの看板にも「保護者同伴幼児は対象外・自己責任」の表示を追加していただきたいです。規制が多いせいか広い公園が閑散としてしまったのではないかと考えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市公園の利用状況は曜日・時間帯などにより大きく異なるとともに、利用方法についても多岐にわたります。その中で、細かな除外規定を設けることは難しいと考えています。</li> <li>・都市公園内での利用方法に一定の制限をかけているのは、利用者の安全を第一に考えてのことですので、ご理解のほどよろしくお願いたします。</li> </ul>	施設管理課